

C-2 ニューヨーク市におけるアパレル・マニュファクチャーの発達(第1報)
山脇厚圓短大 渋谷裕子

目的 既成服の発達に関する基礎的問題として、服飾産業発達の初期の実態の解明を目的とした。20世紀の服装を意匠の観点から論ずるに際し、既成服やその産業の発達を無視して考察することは得ない。既成服の発達を生産と消費の立場から有機的に把握しつゝ、今回は初期の産業の発達に脚光を当てることに努めつゝ、服飾意匠学の立場から考察した。

方法 アメリカその他の国の服飾史および服飾産業関係の文献を中心に、19世紀後半から20世紀前半のニューヨーク市に関する服飾産業の資料を集収し、分析した。ニューヨーク市の服飾産業は、今日、国際的に先駆的存在であるというこゝが言ひ得る。

結果 分析結果より特に初期のニューヨーク市のマニュファクチャーの実態について、産業面より考察し、マニュファクチャーの形成過程、形態、素材の供給状況、生産量などについで明らかにした。